

## 第2回北斗市学習体験フェスティバルに参加して

北斗市理科教育サークルでは、昨年に引き続き、北斗市学習体験フェスティバルに参加し、多くの子どもたちと触れ合い、理科の楽しさの一端を紹介することができました。

### 1. フェスティバルの概要

- ・日時 平成19年9月22日(土)
- ・場所 かなでーる
- ・主催 北斗市学習体験フェスティバル実行委員会
- ・共催 北斗市教育委員会
- ・協力 北斗市女性団体連絡協議会、家庭奉仕の会



### 2. 当サークルとの関わり

理科サークルは、子どもたちに理科の楽しさを知ってもらうという観点から、毎年参加し、実行委員に名を連ねている。参加体制としては、サークル員の中で、都合のつく先生にお願いし、活動を行った。今年度は、6名のサークル員によって運営した。

### 3. 「竹とんぼ」が生まれるまで

昨年度は、「パタリン蝶」でかなりの数の子どもたちが集まったという経緯を聞き、部長と副部長が相談し、あれこれ検討した結果、「紙で作る竹トンボ」に決めた。理由は、材料費があまりかからないこと、適度な制作時間であること、デザインを自分で工夫できること、飛ばし方を工夫できることなどである。

材料は、厚ボール紙、竹ひご、たこ糸、丸棒である。道具として、はさみ、木工ボンド、カッター、色ペン、ドリルを用意した。それと、説明書、ビニル袋である。今思い返せば、当日までの準備が大変であった。トンボになる部分の印刷、丸棒、竹ひ



ご、タコ糸のカッティング、袋詰めである。一晩では終わらず、浜分中、大野小で連日かかった。それでも、最終的にきれいに袋にキット200セットを詰め終わると、「これって、売れるんじゃない？」などと冗談もできる位、手前味噌ながら準備はよくできた。

#### 4. たくさんの子どもたちに囲まれて

当日は、予想通りスタートからたくさん子どもたちが訪れた。当日の朝、集まってくれたスタッフと制作の予行練習をしたので、流れとしては、スムーズにいった。

小さい子から大きい子まで様々な年齢層の子どもたちの訪問に最初は手惑いながらも、しだいに要領を覚えて、次から次へと順番待ちをするまでになった子どもたちの指導に汗を流した。

子どもたちにとって一番の難所は、アンテナをつけるところで竹ひご2本を丸棒にタコ糸を巻きつけながらとめるところだった。小さい子には、指導者の先生が押さえるなどして教えた。また、トンボの部分に



ドリルで2か所穴を開けるところは、危険もあることから、大きい子には指導者がつきながら教えたが、小さい子のトンボについては指導者が穴をあけてあげた。

子どもたちが苦勞することおよそ20分。オリジナルの竹トンボが出来上がった。試運転は会場内で行われ、天井近くまで舞い上がった竹トンボに親子で歓声を上げていた。

余裕を持って200近く制作した竹トンボキットも終了時刻が近づく頃には、残り少なくなり、数としてはちょうど良かったようである。170名位の子どもたちが竹トンボを作っていった計算になる。

#### 5. 実験や体験を通して理科好きな子どもに

インターネットの発展は、情報革命と言われるほど、子どもにも大人にもたくさんの情報を家や学校にいながらにして手に入れることができるようになった。その影でともすれば、実際のものを見ないで、また、実際に行ってみないで、擬似体験のみで、物事を理解してしまうことも多くなってきてしまっているのではないだろうか。「百聞は一見にしかず」という諺があるが、「百聞は一体験にしかず」のように、自分の目で見て、そして自分でやってみて得るものは大きいものであり、その中で、観察技能や実験技術、課題を究明する力などが身についていくのである。そして、自分の体験を持って身につけていったことが力になり、「なぜだろう。どうしたら解決できるのだろう。」という理科好きの子どもたちを育てることになるだろう。

北斗市教育研究所理科サークルでは、次年度も理科の楽しさを感じてもらうため、そして子どもたちの笑顔に出会うため、このような活動も続けていきたい。

#### 6. フェスティバルでの指導者

金子 智和(浜分中)理科サークル部長  
佐々木 朗(大野小)同副部長  
木村 孝(大野小教頭)  
手塚 大貴(浜分中)  
沢田 慶毅(浜分小)  
山崎 ルイ(浜分小)

文責 大野小学校 佐々木 朗